

THE LONGINES WORLD'S BEST RACEHORSE RANKINGS

The official listing of the world's best racehorses

(For 3yos and upwards which raced between 1st January and 5th October 2014)

トレヴ【125】は凱旋門賞(G1)を完勝し、栄光に彩られた競走生活の掉尾を飾った。これにより、36年ぶりとなる凱旋門賞連覇を果たしたが、この競走を2度制したことがあるのは、長い歴史の中でもトレヴを含めわずか7頭である。

LONGINES World's Best Racehorse Rankings			
Leading Horses			
Rank	Horse	Rating	Trained
1	JUST A WAY (JPN)	130	JPN
2	AUSTRALIA (GB)	126	IRE
2	KINGMAN (GB)	126	GB
2	THE GREY GATSBY (IRE)	126	GB
2	VARIETY CLUB (SAF)	126	UAE
6	SEA THE MOON (GER)	125	GER
6	TREVE (FR)	125	FR
8	CALIFORNIA CHROME (USA)	124	USA
8	FLINTSHIRE	124	FR
8	GAME ON DUDE (USA)	124	USA
8	GOLD SHIP (JPN)	124	JPN
8	TAGHROODA (GB)	124	GB
8	THE FUGUE (GB)	124	GB

2013年にはブラックキャビアとランキングトップの座を分け合った同馬は、昨年の凱旋門賞以降の3戦において他馬の後塵を拝したが、今年はこの競走では最後の直線で力強く抜け出すとフロントシャー【124】に2馬身の差をつけ、見事復活を遂げた。ここでは、キングジョージ6世&クイーンエリザベスS勝馬タグルーダ【124】を3着、英セントレジャー勝馬キングストーンヒル【121】を4着にそれぞれ降している。

ザグレイギャツビー【126】は愛チャンピオンSを制して、前回発表後、3歳馬では最も高い評価を得た。すでに仏ダービーを3馬身差で制していた同

馬は、8月の英インターナショナル S(G1)ではオーストラリア【126】に2馬身差で敗れていたが、愛チャンピオン S では見事雪辱を果たした。

チャームスピリット【122】はムーランドロンシャン賞(G1)でトロナド【121】やナイトオブサンダー【121】の追撃を振り切り、今年の戦績を5戦4勝とした。同馬は前走ジャンプラ賞(G1)も制しており、この勝利によってG1 2連勝を果たした。

オリンピックグローリー【122】はフォレ賞(G1)を2馬身差で制し、5月のロッキンジ S(G1)に続き、今季2勝目を上げた。

北米ではシェアドビリーフ【122】が終始外を回らせられる不利がありながらもオーサムアゲイン S(G1)を激戦の末、クビ差制し、通算7戦7勝とした。

またワイズダン【122】はシャドウェルターフマイル(G1)を後方から追い込み1馬身差で制し、ここ15戦で14勝目をあげた。7歳となった同馬の唯一の敗戦は今年のこの競走であるが、その時は大量の降雨によりポリトラックに馬場変更となったものであり、芝ではこのところ14戦無敗である。

ハスケル招待 S 勝馬バイエルン【121】はトラヴァーズ S では期待に応えることが出来なかったが、ペンシルバニアダービー(G2)では2着に5馬身3/4差をつける圧倒的なパフォーマンスを見せ、見事巻き返した。